

第15回 令和7年度(2025年度)

サイブラリーコンクール



Pansée 特別号

最優秀賞
受賞作品

優秀賞
受賞作品

目次

サイブライーコンクール 各賞受賞の皆様へ	1
応募総数.....	3
受賞者一覧.....	4
表彰式の様子.....	5

書評

最優秀賞 虐待児の克服.....	山田 ひより	8
優秀賞 52 ヘルツの声	金子 夏実	10
優秀賞 道が語る絵本.....	小林 実玖	12

評論

優秀賞 民話における奇数が多用される構造の意図とその理由について	田中 唱	15
----------------------------------	------	----

POP

最優秀賞 『水たまりで息をする』 高瀬 隼子 著	永坂 華瑛	19
優秀賞 『謎の香りはパン屋から』 土屋 うさぎ 著	間峠 美佳	20
優秀賞 『私は私のままで生きることにした』 キム スヒョン 著	岡田 葉奈	20

サイブライコンクール 各賞受賞の皆様へ

本から広がる未知なる世界

札幌国際大学・札幌国際大学短期大学部学長 蔵満保幸

第15回サイブライコンクールに、書評、評論、POP各部門に多数の応募をいただきありがとうございました。受賞された皆様おめでとうございます。

ここ数年この原稿で若者の本離れについて話題にしています。若者が本を読まない理由の中で、私が特に気になるものを二つ紹介します。()は私のつぶやきです。

- ・時間をもったいない。読書は時間がかかる。1冊読むだけでも数時間かかる。(スマホを見ている時間はもったいないのかな。一日何時間も見ているよね。)
- ・楽しくないから 読書はゲームほど楽しくない。

(子どもの頃の絵本は楽しかったよね。読書だって楽しいよ。本を手にとってね。)

この理由、学生の皆さんはどう感じますか。文字(特に小説)を読んでその文字から自分の頭(脳)で文字から画像(映像)に変換し、自分で想像した世界に自分が入り込んでいく面白さを体験したことありませんか。子どもの頃に夢中になった絵本など思い出してください。楽しかったですね。

私は歴史小説やミステリーが好きで、司馬遼太郎さんや西村京太郎さんの作品は殆ど網羅しました。そこから派生して小説に登場する場所、史跡などを訪れることを趣味としています。そのためには時刻表が必携です。路線図から掲載ページを見つけ乗車列車や下車駅などを探しスケジュールを立てる。旅が実現しなくてもそれだけでワクワクします。その結果最も好きな愛読書は時刻表です。

仕事の合間など時刻表一つで全国どこでも列車の旅に出かけ、海岸や田園、森林等の風景に思いを巡らすことができます。自分の頭で文字から映像に変換することは脳の活性化にも良いとされています。皆さん本に親しみ楽しみ、大いに脳を活性化させ頭も心も豊かな人生にしませんか。

「文章とは何か？という問い」

総合情報館・図書館長 高橋 伸

生成 A I が台頭している。「もう、生成 A I なしに勉強するのは無理」という声や、「国家試験の勉強には生成 A I が必須」という声が聞かれる。一方、「生成 A I に文章を書かせると、私の文章ではなくなる。よってレポートには使わない」という学生もいる。こういった意見を聞くと、決まって思い出す文章がある。

2024 年 11 月 13 日、谷川俊太郎がこの世を去った。日本で一番有名な詩人である。小中高の教科書のどれにも素晴らしい作品が掲載されている。その谷川が、生成 A I が世間で話題になるよりも前に、こう書いている。

だから、少し独断的であるかもしれないが、こう言わせてもらおう。あらゆる文章は、たとえそれがいわゆる個性的な文章でないにしても、個人的であると。少なくとも私の考える文章とはそういうものだ。書くにしろ、読むにしろ、私は常に先ず自分と向かいあわざるを得ない。

谷川俊太郎（2006）『詩を書く』思潮社

文章と向き合う前に、先ず自分と向かいあう。たとえば、あなたが書いた文章は、あなたが自分と向かいあった末の産物なのだ。そして、あなたが読むということは、何人にも代えがたいあなたが、あなただけがなし得る読みにたどり着くことだ。この冊子の中には、生成 A I にはたどり着くことのできない生の声がある。ぜひ、お読みいただきたい。

応募総数

計 330 点

書 評

国際教養学科	46
心理学科（臨床心理専攻）	79
心理学科（子ども心理専攻）	33
総合生活キャリア学科	23
心理学研究科	1
合計	182

評 論

心理学科（子ども心理専攻）	1
合計	1

P O P

国際教養学科	21
心理学科（臨床心理専攻）	12
心理学科（子ども心理専攻）	1
観光ビジネス学科	25
スポーツビジネス学科	20
スポーツ指導学科	32
総合生活キャリア学科	36
合計	147

全部門を合わせた応募総数

大学	国際教養学科	67
	心理学科（臨床心理専攻）	91
	心理学科（子ども心理専攻）	35
	観光ビジネス学科	25
	スポーツビジネス学科	20
	スポーツ指導学科	32
	大学合計	270
短大	総合生活キャリア学科	59
	短大合計	59
大学院	心理学研究科	1
	大学院合計	1
応募総数		330

受賞者一覧

◆ 書 評 ◆

賞	学 科	学 年	氏 名
最優秀賞	総合生活キャリア学科	1	山田 ひより
優秀賞	心理学科 子ども心理専攻	1	金子 夏実
優秀賞	心理学科 子ども心理専攻	1	小林 実玖
佳作	国際教養学科	2	山岡 海優
佳作	国際教養学科	2	杉原 舜
佳作	国際教養学科	1	森脇 徹平
佳作	心理学科 臨床心理専攻	1	金森 泰成
佳作	心理学科 子ども心理専攻	3	横田 花恋
佳作	心理学研究科	1	平山 仁梧
留学生特別賞	国際教養学科	2	金 在錫
留学生特別賞	国際教養学科	1	申 彩煥

計 11 名

◆ 評 論 ◆

賞	学 科	学 年	氏 名
優秀賞	心理学科 子ども心理専攻	3	田中 唱

計 1 名

◆ POP ◆

賞	学 科	学 年	氏 名
最優秀賞	国際教養学科	2	永坂 華瑛
優秀賞	総合生活キャリア学科	1	間峠 美佳
優秀賞	総合生活キャリア学科	1	岡田 葉奈
佳作	国際教養学科	3	本田 花怜
佳作	国際教養学科	2	牛込 早也香
佳作	国際教養学科	2	佐野 紅音
佳作	国際教養学科	1	森田 優空
佳作	心理学科 臨床心理専攻	1	筒井 七緒
佳作	総合生活キャリア学科	1	橋本 珠奈
佳作	総合生活キャリア学科	1	水津 瑠梨
佳作	総合生活キャリア学科	1	木下 涼寿

計 11 名

表彰式の様子

令和 7(2025)年 12 月 18 日(木) 図書館「黎明」にて







書評部門

最優秀賞

虐待児の克服

総合生活キャリア学科 1年
山田 ひより

最優秀賞に選んでいただけてとても嬉しいです。改めて自分の書いた書評を読み返すと、知識も考えも今と変わっていて少し恥ずかしいです。ですがこの変化も、読書の面白いところだと感じています。この度は貴重な機会をありがとうございました。

《書評対象図書》



『土の中の子供』

中村 文則<著>
新潮社, 2005年

『土の中の子供』は、死への欲動の克服を描いた暗く、重たい小説である。しかし、読後には光が差し込むようなすっきりとした気持ちになる一冊だ。誰が読んでも心に響くものがあると思うが、特に、死に向かいそうになる気持ちを抑えきれずに苦しみ、自己破壊的な行動をとってしまう人には、大きな支えになる本だと思う。

私がこの本を選んだのは、この本の著者、中村文則のいくつかの作品に心を打

たれてきたからである。中村文則は、人間の内面を深く描写した文体が特徴的な作家である。これまでに新潮新人賞や野間文芸新人賞など数々の受賞歴があり、本書も第百三十三回芥川龍之介賞を受賞した作品である。特にこの作品は、一人称視点で語る主人公を通して、自分と重なる心理を読み取ることで、自身でも理解できていなかった自分の一面を知ることができるのが、一番の魅力であると思う。

幼少期の養父母からの虐待のトラウマに苦しむ二十七歳のタクシードライバーが、そんな自分の人生を一人称で語っていく。主人公は自らを暴力に晒し、不利な状態にしていくが、そうしながら、自身ですら曖昧なこの行動の意味を何度も自分に問う。主人公はまるで死を望んでいるかのような行動をとるが、そういうわけでもないようだ。そしてこの行動の意味を、死の間際で見つけるのである。

「私が望んでいたのは克服だったのではないだろうか。」わざと恐怖を作り出し、それを乗り越えることで、主人公は死への欲動から解放されようとしていたのだ。

養父母に土に埋められる場面は特に印象的であった。冷たい土の中に一人沈んでいく孤独感が一人称視点の描写から鮮明に伝わってくる。「土が私を侵食し、

私が土を侵食していく。」「空腹も、恐怖も、ここにはない。」生命が無機質な状態に戻ろうとしていることに対して抱く、不安と安心が入り混じった、複雑な感情描写が圧巻であった。

この本を読んでよかったと感じた点は、大人にも未熟な人がいることに気づけたことだ。私は、自分はまだ大人ではないと感じている。そして、大人というのはいつも正しく、だから何を考えているのかよくわからないと思い、少し苦手意識を持っていた。しかし、この本で、大人でも私と同じように考えていることを知った。そのあと、身の回りの大人についてよく振り返って考えてみると、やはり私と同じように未熟なところがあると気づき、同じ人間なのだと認めることができたことで、苦手意識が薄まった。

だから私は、この本を、大人ではない、未成年の人たちや、大人に苦手意識がある人たちにこそ、読んでもらいたいと思った。

優秀賞

52 ヘルツの声

心理学科 子ども心理専攻 1年
金子 夏実

《書評対象図書》



『52 ヘルツのクジラたち』

町田 そのこ<著>

中央公論新社, 2020年

町田そのこの『52 ヘルツのクジラたち』は、人々の孤独と再生と支える周囲の人々を描いた小説である。タイトルにある「52 ヘルツのクジラ」は、他のクジラよりも高い周波数で鳴くため仲間すら声は届かず、世界一孤独なクジラと呼ばれている。その姿を本作では「声をあげても届かない人間」の象徴として繰り返し書かれている。

主人公の貴瑚は、幼い頃から家庭で虐待を受け続け、居場所を持たないまま大人になった女性。一度はこの環境から救い出してくれた人を信じるが、その人の52 ヘルツの声を聞き逃し、貴瑚は自分を責めて人を信じることも愛することも諦め、海辺の町で暮らす。そんな貴瑚の

前に、親から存在を否定され言葉を奪われた少年が現れる。まさに52 ヘルツのクジラのように世界から切り離された存在である二人は、共に生き直そうとする。

本作の魅力は、虐待やジェンダー問題といった社会問題をただ読者に訴えるのではなく、「声にならない声」に耳を澄ませる姿勢を書き続けていることだと思う。過酷な現実を書きながらも、寄り添う温かさを感じる小説である。この小説から「人とつながることで救われる」という希望を感じることができる。

本作でも、貴瑚が少年に手を差し出すことが貴瑚自身を救うことでもあることが分かる。その姿を見ると、人は誰かに必要とされることで生き直せると気づかされる。

物語は決して安易なハッピーエンドに収まらない。傷は消えないし、社会の冷たさも依然として存在している。それでも「声を聴いてくれる誰か」がいるという事実が、どれほど人を生かすのかが切実に書かれている。タイトルにもある「52 ヘルツ」という声は、読後に強い印象を残し、読者自身の孤独や痛みと重ね合わせることを促すように感じさせる。『52 ヘルツのクジラたち』は、虐待などの重い現実を扱いながら、希望は他

者とのつながりの中にあると語りかけてくる。

誰かの声にならない声を聴くこと、そして自分の声が届くと信じて声をあげることの大切さを思い起こさせる作品である。読んだ後に身近な人の存在をもう一度大切にしたいくなるような、心に寄り添う物語である。大切な人の声を聴き逃したくないすべての人に届けたい一冊だ。

優秀賞

道が語る絵本

心理学科 子ども心理専攻 1年
小林 実玖

《書評対象図書》



『いつまでもいっしょどこまでもいっしょ』

永淵 浩子<著>,
木村 裕一,田島 征三ほか<絵>
金の星社, 2004年

『いつまでもいっしょどこまでもいっしょ』は、永淵浩子によるストーリーに、木村裕一と田島征三が絵と構成を手がけた絵本である。「道」の視点から語られる心温まる作品であり、絵本ながらも深いメッセージを含んでいる。

物語は道が語り手となり、赤ちゃんから小学生に成長していく少年を見守るという形で進む。ときには少年を助けたら、家族のように成長を喜んだりする。どの季節でも何をしているときでも、「いつまでも、どこまでも一緒にいるよ」というメッセージが言葉に隠されており、安心感を与えている。

この絵本の魅力は、普通なら背景として描かれる道の視点で話が進んでいることである。特に、「きみはひとりぼっち

なんかじゃないよ。だって、『みち』はどこまでもつづいているんだもの。」という言葉が印象的だった。誰にも頼ることができなくて、どうしようもなく不安になるときがある。そんなときでも常に道が側にいることで1人ではないんだと思い、心強い味方のように感じた。子どもころから何気なく歩いていた通学路の道も、落ち込んでいるときは励ましてくれていたと思い、嬉しくも思った。

この物語は、分かりやすいような起承転結の話ではない。しかし、日常の当たり前だと思っていたものに対する新たな視点や、身近な人以外からの温もりなどを感じることでできる作品だ。物語を通して、優しく語りかけるような口調で書かれていたり、どのページも常に道が大きく描かれていたりすることで、包容力や温かさがより表現されている。幼い子どもは、道が語るという発想を理解しづらい可能性も考えられる。読み手の工夫が必要にもなるが、親子やクラスなどでじっくりと話し合いながら、話の内容を受け取っていくことでより深く心に残っていくと考える。

『いつまでもいっしょどこまでもいっしょ』は静かに心に残る、優しく温かい絵本である。日常の生活や成長していく過程で変わっていくことが多いなか、変わらぬものとして側にあるものへの気

書評部門

づきを得ることができる、子どものみならず大人にも響くメッセージ性や温もりのある 1 冊だ。



評論部門

優秀賞

民話における奇数が多用される構造の意図とその理由について

心理学科 子ども心理専攻 3年
田中 唱

1. はじめに

民話とは広義の意味で、神話や童話、昔話などを含む物語である。⁽¹⁾ 例として、日本神話の『古事記』⁽²⁾ やグリム童話の『灰かぶり』⁽³⁾、ノルウェー昔話の『三びきのやぎのがらがらどん』⁽⁴⁾ などが挙げられる。

これらのような物語には、物語の構造に法則性がある。それは、3のリズムがあるということだ。『古事記』では、イザナギが物を三度投げて黄泉から逃げる。また、『灰かぶり』『三びきのやぎのがらがらどん』では、敵と反復的なやり取りを三回行う。このことから、3のリズムという構造が物語の中核を担っていると推測できる。さらに、民話における物語の構造には、グリム童話の『おおかみと七ひきのこやぎ』⁽⁵⁾ や中国民話の『王さまと九人のきょうだい』⁽⁶⁾ など、物語の登場人物に7や9といった奇数が用いられる傾向もみられる。

以降では、3という数、ひいては奇数全体が民話に多用される構造の意図と、その理由について考察していく。

2. 民話の構造

前述のとおり、民話における物語には3のリズム構造が存在する。しかし、なぜ3回というリズムが用いられているのだろうか。小澤は著書『昔話の語法』で、「昔話の三回のくり返しが同じことのくり返しではなくて、三回めはとくに長く、とくに重要である、そして全体としてストーリーのリズムを形成している」⁽⁷⁾ と説明している。たしかに、『三びきのやぎのがらがらどん』でトロールが、一回目のやぎと二回目のやぎを見逃した後、三回目のやぎがトロールを倒す場面は、爽快かつ物語の緊張と解放が最も効果的に生じる場面として構成されている。このように、3のリズム構造は、「物語のリズムを形成する」という明確な意図が読み取れる。

一方で、このような構造が古くから多くの民話に共通して見られるのは、単なる慣習ではなく、人間の感覚や語りの構造に深く関わりがあると考えられる。その中で、3という数、ひいては奇数全体が物語構造そのものの基盤を成す仕組みとして機能しているのではないだろうか。つまり、3という数や奇数が民話において特別な意味をもつのは偶然ではなく、物語の展開や聞き手の感覚に関わる構造的な理由があると考えられる。その理由として、次の二つの視点で考察を展開する。

3. 奇数と偶数の文化的背景

第一に、文化的な背景が影響しているという視点である。

西山は論文『奇数の文化と偶数の文化』において、「東洋は奇数の文化を持ち西洋は偶数の文化を持っている」⁽⁸⁾と説明した上で、「ギリシア時代では奇数は善の数字であった」⁽⁹⁾と述べている。換言すると、東洋は今も昔も奇数を好む一方で、西洋はかつて奇数を好んでいたが、現代では偶数を重んじるようになったということである。

まず、日本を例に考えてみると、3を含む奇数は、昔から親しまれていることが分かる。具体的には、年中行事である「七五三」や俳句の「五七五」が挙げられる。五節句に関しては、「一月七日（七草の節句）、三月三日（桃の節句）、五月五日（菖蒲の節句）、七月七日（笹竹の節句）、九月九日（菊の節句）」のようにすべての日付が奇数で構成されており、奇数が生活の中に浸透していると考えられる。

次に、現代の西洋を例として考えてみると、偶数を基準にした価値観があることが分かる。英語の even number（偶数）と odd number（奇数）、フランス語の nombre pair（偶数）と nombre impair（奇数）、ドイツ語の gerade Zahl（偶数）と ungerad Zahl（奇数）などのように、ヨーロッパ言語ではまず偶数の単語があり、その偶数を基に派生して奇数の単語ができていることから、

現代の西洋では偶数が価値観の軸であると考えられる。

しかし、古代ギリシアにおいて奇数が善とみなされていたことを踏まえると、現代の西洋言語と古代ギリシア語のルーツはインドヨーロッパ語族であるため、西洋では、ある境目までは奇数を好んでいたと考えられる。

つまり、文化的背景から見て、人間は古くから奇数を好む傾向があり、現代まで伝えられている民話はその文化の表れであると考えることができるのではないだろうか。このように考えると、グリム童話の『おおかみと七ひきのこやぎ』や中国民話の『王さまと九人のきょうだい』が西洋と東洋という異なる文化圏であっても、奇数が物語の構成原理として機能しているのは自然なことである。

4. 集合的無意識

第二に、人類の心理的な側面が民話の構造に影響しているという視点である。

人々は、科学が発展していない時代に、物事の理屈や意味を神の行いとして考えてきた。これは、日本神話をはじめギリシア神話など世界各地の神話に共通して見られる特徴である。しかし、このような神話はそれぞれが独立しているわけではなく、共通する似た構造をもつことが示唆されている。例えば、『古事記』におけるイザナギが黄泉から逃げる話は、ギリシア神話におけるオルフェウ

スが冥界から逃げる話⁽¹⁰⁾と酷似している。

このような神話の構造を、スイスの精神科医・心理学者であるユングは、人類共通の普遍的な無意識として「集合的無意識」⁽¹¹⁾⁽¹²⁾と名付けた。また、ユングは集合的無意識の中に元型（アーキタイプ）が存在すると考え、これは民話における世界各地の神話に共通していることが分かる。

具体的には、キリスト教の三位一体やヒンドゥー教の三神一体、ギリシア神話の三美神など3に関するものや、キリスト教の七つの大罪や中国神話の七夕など、3という数、ひいては奇数が人間の深層心理に根ざした普遍的な象徴的数であると考えられる。

つまり、民話には無意識のうちに3や奇数を元型とし、昔から人類の象徴的な数として用いていたため、現代の民話にも構造として残っていると考えられる。

5. おわりに

以上の考察を踏まえると、3を含む奇数全体が民話において、文化や心理の双方に基づいた人間の根源的な感性の表れであり、人間の営みの中で育まれた重要な価値であると認識できる。また、こうした視点から民話を捉えることは、古典的な物語を単なる過去の文化としてではなく、人間の普遍的な表現形式として理解する手がかりとなるだろう。

参考文献・引用文献

- (1) 松村明 監修 (1995) 『大辞林』三省堂 (p.2566)
- (2) 小澤俊夫責任編集 (2000) 『子どもと昔話 第三号』古今社 (p.49-52)
- (3) 小澤俊夫責任編集 (2000) 『子どもと昔話 第四号』古今社 (p.10)
- (4) マーシャ・ブラウン絵 せたていじ訳 (1965) 『三びきのやぎのらがらどん』福音館書店
- (5) フェリクス・ホフマン絵 せたていじ訳 (1967) 『おおかみと七ひきのごやぎ』福音館書店
- (6) 赤羽末吉 絵 君島久子 訳 (1969) 『王さまと九人のきょうだい』岩波書店
- (7) 小澤俊夫(1999) 『昔話の語法』福音館書店 p.299
- (8) 西山豊(2005) 『奇数の文化と偶数の文化』「理系への数学」現代数学社 Vol.38 No.10 p.56-59
- (9) 西山豊(2005) 前掲
- (10) 小澤俊夫責任編集 (2000) 『子どもと昔話 第三号』古今社 (p.49-52)
- (11) C.G.ユング 松代洋一/渡辺学 訳 (1995) 『自我と無意識』 第三文明社
- (12) 河合隼雄 著(1977) 『無意識の構造』中公新書
- (13) 第一学習社編集部(2013) 『最新倫理資料集』 第一学習社



POP 部門

最優秀賞

水たまりで息をする

国際教養学科 2年

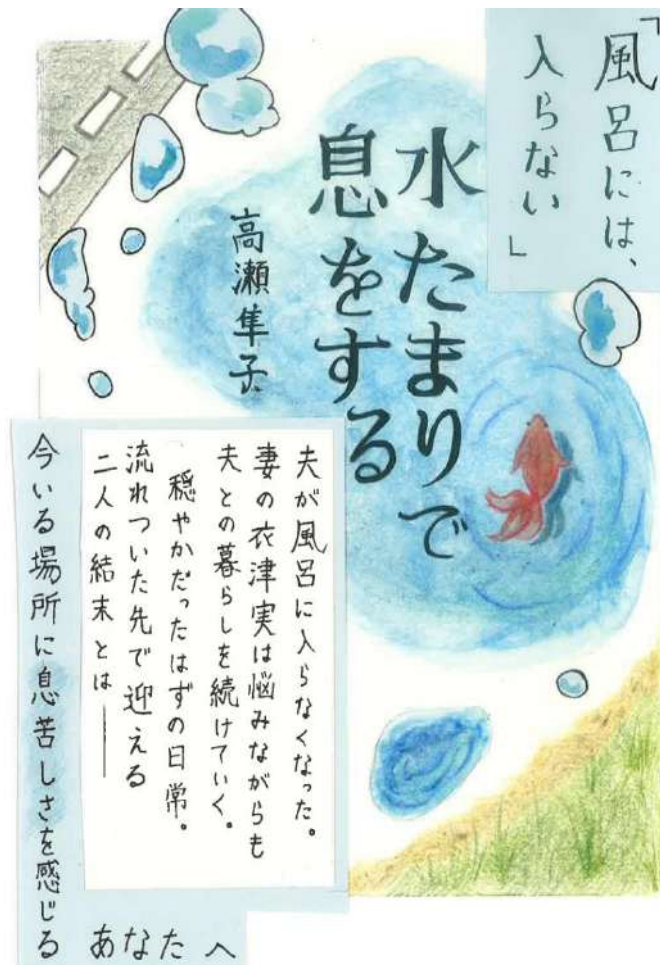
永坂 華瑛

◀POP 対象図書▶



『水たまりで息をする』

高瀬 隼子<著>
集英社, 2021年



この度は、サイブリーコンテスト POP 部門で最優秀賞を受賞することができ光栄です。今回作成した POP が誰かの読書のきっかけになれば幸いです。私自身、今後も様々な本を読んでいきたいです。

優秀賞

謎の香りはパン屋から

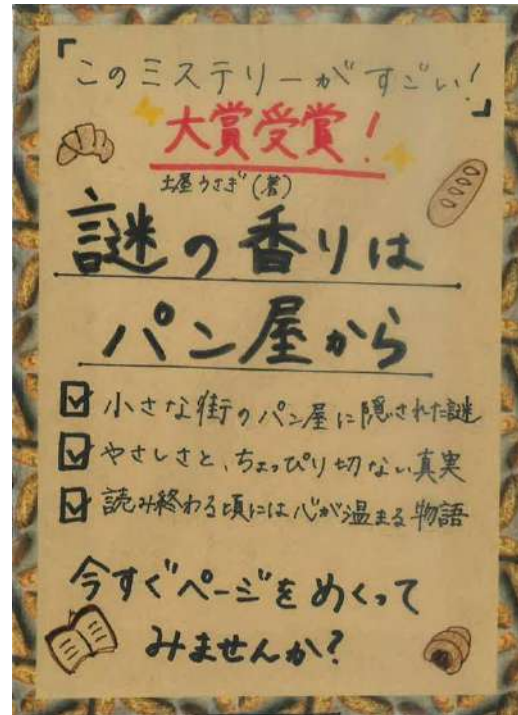
総合生活キャリア学科 1年
間峠 美佳

《POP 対象図書》



『謎の香りはパン屋から』

土屋 うさぎ<著>,
宝島社, 2025年



優秀賞

私は私のままで生きることにした

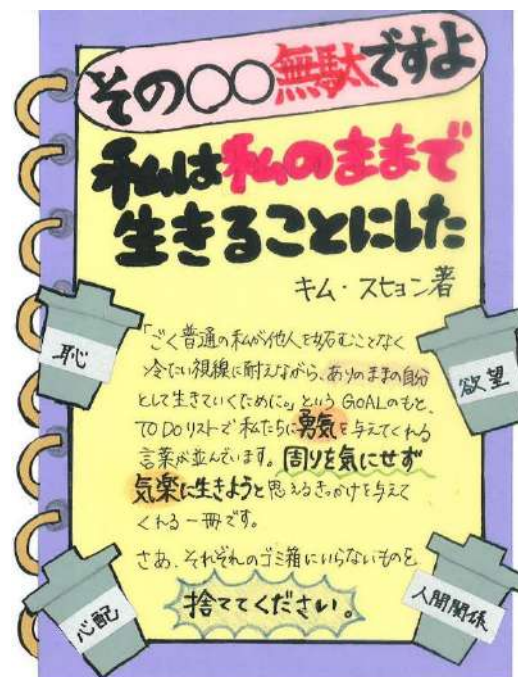
総合生活キャリア学科 1年
岡田 葉奈

《POP 対象図書》



『私は私のままで
生きることにした』

キム・スヨン<著>,
吉川 南<訳>
ワニブックス, 2019年



図書館発行誌『Pensée』について

『Pensée』とはフランス語で「パンセ」と読み、哲学者パスカルの有名な言葉
「人間は考える葦(= roseau pensant)である」の「考える(penser)」から名づけられました。

Pensée 特別号

第 15 回 サイブラリーコンクール 令和 7 年度(2025 年度) 最優秀賞・優秀賞受賞作品

令和 8 年(2026 年)1 月 発行

編集・発行 札幌国際大学図書館

〒004-8602 札幌市清田区清田 4 条 1 丁目 4 - 1

T E L : 011-881-6722

E-mail : toshokan@ad.siu.ac.jp

※作品は作者の表現を尊重するため、原文のまま掲載しております。

無断での転載・複写を禁じます。